

平成26年度豊田地区まちづくり集会開催記録（概要）

◎日 時 平成26年10月18日（土）14：00～16：00

◎場 所 豊田生涯学習センター 第1・2研修室

◎出席団体数 17団体

下関市豊田自治会連合会、豊田下地区自治連合会、下関市立豊田中学校PTA、下関市立殿居小学校PTA、下関市老人クラブ連合会豊田支部、豊田地区民生児童委員協議会、下関市社会福祉協議会豊田支所、豊田文化協会、豊田町認定農業者協議会、豊田町女性団体連絡協議会、豊田地区保健推進委員会、檜原ゆうあい会、豊田町幼稚園・保育園父母の会連合会、西市地区自治連合会、三豊地区自治連合会、豊田くらしの会、豊田中学校区ふるさと協育ネット

◎市出席者 市長 中尾友昭

総合政策部政策調整監：星出恒夫 総合政策部部次長：田中光太郎
総合政策部地域支援課課長：阿部恒信、主任：工藤敏也
豊田総合支所長：菊地義人 豊田総合支所地域政策課課長：河島正

◎傍聴者 11名

◎次第

1	開 会	14：00
2	市長講話（私が考えるあらたなまちづくり）	14：00～
3	あらたなまちづくりに関する意見交換	14：15～
4	下関市住民自治によるまちづくり推進計画（素案） 及び全体スケジュールの説明	14：30～
5	推進計画（素案）及びスケジュールに関する意見交換	15：10～
6	閉 会	16：00

◎まちづくり集会開催の目的

住民自治によるまちづくりを推進するため、その基本となるまちづくり推進計画の策定等に関し、広く地域住民の意見を聴取する場として、それぞれの地域において「まちづくり集会」を開催します。併せて、それぞれの地域における住民等のまちづくり活動に対する機運の醸成を図ることを目的としています。

◎まちづくり集会開催

開式のことば
出席者紹介



◎市長講話

私が考えるあらたなまちづくり
～別紙：市長講話の概要参照～

◎あらたなまちづくりに関する意見交換

参加者 地域の事業で訴訟が起きた場合、どの辺までサポートしてもらえるのか。

市長 事業内容にもよるが、活動の中でそういう事例が発生すれば、市役所にも顧問弁護士がいるので相談はできる。

参加者 どんな事態が発生するか分からない。責任問題もあり、恐る恐るはやれない。

市長 市役所主催でないため、気を付けてやってもらわないといけない。

危惧がある場合はあらかじめ相談してもらうなどが考えられる。また、予算の中から損害保険料を払うなどの対応はできる。

参加者 自治連合会5地区あり、各自治会長が色々なところに参加してやっている。ほとんどが同じメンバーである。

組織については、下から盛り上がりをつくって、5地区をまとめるのが、まちづくり協議会ではないかと思う。下から盛り上げないと、上から作っていくと、なかなかうまくいかない。

例えば、地区の運動会でも、西市と三豊地区と一緒にやることはない。地区であれば、顔なじみで、子どもの頃から知っている。地区毎に集まって、色々な形を作って上にあげ、下関全体にあがる組織がいいと思う。

市長 自主的な活動はどんどん、やってもらって良い。

市内はとても広いので、中学校区、4町はそれぞれ1つを予定している。そうしないと、こっちは大きい、こっちは小さいなど統一が取れないので、市としては17地区を予定している。

全体的なお金が出る窓口があって、今までの活動がそれ以上に広がる。全体でもできるし、各地区でも祭りがあり、それを中で協議するやり方である。

もう1つ、各地区を決めて、市役所が委員を決めてやる法律的な方法があるが、市役所の政策だけについて意見を聞く形だけで、これでは自主性が出ないため、能動的に自分たちの町をどのようにしていこうか、という事をやっていただくということが、このたびの市役所の方向となっている。

参加者 合併10年の評価、合併して良かったということを地区民として知りたいが、合併して良くないという声が多いのは、まだ、成果のPRや説明が徹底していないのでは。10年の評価の上に立って、これからの計画があると思う。

中核市になった良い面もあろうが、どういう所が良かったのか見えていない。また、残された課題もあろうと思う。その辺を整理して、今後の計画に生かし

てもらいたい。郡部に視点がどのように当たっているのか、素案の中で十分に生かされていると思うが、詰めてもらいたい。郡部は、力が随分弱っているため、その力をつけるには、並大抵のことでない。

市長 合併の評価は、毎年、市民に意識調査を行っている。まずは、市民がどうかということが第一になる。色々な事業の積み残しについては、当然、分かっているし、地元の議員から毎年要望がある。豊田だけでなく4町について同じことが言える。

今、少子高齢化がどんどん進んでおり、日本の人口が減って、下関だけ人口を増やすことは難しく、特に4町側は厳しい。高齢化がどんどん進んでいる。現実を捉えて、どのようにして町の元気を少しでも保つか、賑わいのポイントを絞っていくかということ。1市4町の効果は、ハードもそうだが、それよりもソフトで、難視聴地域も格段に減ってきた。単独町であれば難しかった課題だと思うが、下関市の予算が相当入っている。一部残された地区もあるが。地デジやコンピュータ、携帯電話がかなり進み改善されてきた。1つの町では、それだけの財源を投入するのは難しかったのではと思うが、それはこちらが思う効果であって、それだけで充分だとは思っていない。今後、協議会の中でそういうことも話されたい。

中核都市の評価については、地方分散ということで、中核市、地方中枢拠点都市を作る。このたび国に選定されたが、下関市は北九州と一緒に連携した、海峡を越えた全国で1つの事例である。経済的には下関市は山口県の3分の1を占めている。真ん中の山口、東は広島経済圏であり、そうなると、豊田だけでなく美祢、長門、山陽小野田は、下関の経済圏になる。今、その力がある。将来的に、山陰自動車道など、国家軸が通ってくる。経済だけでなく、防災、医療、そういう面で、下関市に長門市、萩からなるべく早く行きたいということもあり、国としてもかなり地方に力を入れていくため、その流れも豊田に繋がっていく。時間がかかるかもしれないが、全然だめとは思っていない。まちづくり協議会は徐々に進めていくので、何が何でも作らないといけないということではなく、よその動きを見ながらでも結構です。いっしょに頑張りたいと思う。

◎下関市住民自治によるまちづくり推進計画（素案）及び全体スケジュールの説明
～別紙：説明概要及び説明資料参照～

◎推進計画（素案）及びスケジュールに関する意見交換

参加者 いきなり17地区にこだわるのではなく、例えば、5地区の小さい単位で作っていったら、最後に大きくしようというのであれば話は分かる。

もう一度、小さい単位でも助成金を出すというもので取り組んでももらいたい。

市担当 確かに全国的にも小学校区もあるが、本市としては、人口減少、少子高齢化を考えると、小さい範囲よりも中学校区ぐらいでやるべきではないかと方針を出

- した。支部形式で進めて、それぞれ課題もあると思うが、情報交換をする中で、足りない部分や、良い活動をする場があっても良いのでは。
- 参加者 支部は支部でも良いが、豊田町全体の文化協会、商工会等の団体がある。これは、地区にはない。地区は地区で、団体がある。それを上手にまとめるのは上で良いが、そういう組織にすれはうまい具合にいくと思う。地区と全町の分、それぞれをやれば良い。地域支援課のメンバーで若い者はいるのか。
- 市担当 だいたい40代となっている。
- 参加者 今後はどこの課が対応するのか。サポート職員のメンバーは想定しているのか。
- 市担当 地域が決まれば、担当職員が配置される。
- 参加者 総括はどこなのか。
- 市担当 今であれば総合政策部になる。
- 参加者 総合支所の関係はどうなるのか。
- 市担当 当然、連携を図っていかないといけない。
- 参加者 地域と連携がとれる人を配置しないと、いきなり豊田以外の人に来て、誰が誰かも分からない人ではダメなので、地元の職員を張り付けて欲しい。そうでもないとうまくいかない。きちんとしておく。豊北町から来て分らない。
- 市担当 100%は難しいが、そういう要望は伝えたい。
- 参加者 協議会が何をするのか分からない。今、それぞれの団体で活動している。今のこのまちづくりはソフトが優先か、ハードが入ってくるのか。
- 市担当 基本はソフトである。
- 参加者 ソフトであれば今やっているが、また、協議会をつくるばかりで、同じもの。組織ばかり増えて、今ある団体を充実させる方が良い。
- 参加者 今の活動の中の自主財源で行っているものを、補助金に乗せても良いのか。
- 市担当 補助金要綱を作るが、その対象になれば良い。
- 参加者 その辺をはっきりしないと訳が分からない。
- 市担当 今日、推進計画の意見を頂くものである。
- 参加者 計画であっても、きちんと分からないと歩めない。現在、総合支所と連携した会があるが、また、別の会を作って本庁と協議ということになると、我々は、どこに向かっていいのか、だんだん分からなくなる。
- 市担当 私の方から組織を統合してくれということとは言えないので、地域で話し合いをして、この機会に、何個もつくっても仕方ないため、ある組織を母体にして再編するなど考えていただくことは非常に良い。どういった組織が良いのか、地区の団体活動の詳細は把握していないため、皆さんと相談しながら、どういう組織をつくるのか、今から考えていけば良いと思う。
- 参加者 来年度予算はどうなっているのか。1千万や2千万では、何にもできない。使い道はどうするのか。各団体にばらまくのではなかろうから、活動には使えないはずで、事務費みたいなものを使うのではと思う。
- 市担当 来年度は、設立支援補助金としている。
- 参加者 説明しないから分からない。金額はどのくらいあるのか。

市担当 金額が分からないと、今からの計画ができないと認識している。議会もあるため、議会にきちんと説明した後、早い段階で示したい。

参加者 施設を使うものや人件費などもあるだろうが、対象費用はどう考えているのか。

市担当 来年度は、設立支援であるため、金額は小さい。金額は決まっていないが、他市の例で言えば、5万、10万、15万、20万程度。

活動、運営補助金となると、事務員を雇えば、賃金的なものや、会議のお茶代や消耗品などが考えられる。

参加者 活動支援の内容はどう考えているのか。

市担当 実際に活動するときの支援で、事務補助と活動支援がある。補助対象はしっかり示し、サポート職員も配置する。

参加者 一括で1億くらい出して、不要なら戻すのが良い。

市担当 最初から一括にすると、使うのに困ると思う。

参加者 わずかな金額で、手間をかけて、交付申請や交付決定などわずらわしい。

市担当 それが大変なので、マニュアルをつかって、サポートをさせてもらう。

参加者 100万くらいならともかく、5万、10万では、事務の手間がかかるだけ。

市担当 来年は、あくまでも設立支援補助金で、最初の話だけである。

参加者 市は文書を出したら、人が集まってくると思っている。職員は時間外が出るだろうが、人を集めて会議してくれという、そういうスタンスが嫌い。

今の世の中、ボランティアとって、忙しい中で寄って、往復費もくれない、謝礼もくれない。そういう時代はもう終わり。文書だけで寄ると思ったら大まちがいだ。

市担当 色んな考えや意見がある。

参加者 逆の立場になってみると理解できる。

市担当 市の職員も全然出てこないと言われており、市も姿勢を変えないといけない。推進計画にも無償で行うボランティア制度を入れる。

参加者 何故かと言うと、役員の数1個の役であれば良いが、莫大ある。

市担当 潰すことができない団体があり、ある程度整理することが必要。ネットワークをつかって連携をしていくことが、今からは必要だ。

参加者 田舎は結構できている。できていないのは旧市内である。

市担当 旧市もできているところもある。4町でも、どこまで完璧にできているかわからない。

参加者 推進計画にある、情報発信は義務付けなのか。しないと交付金の対象にならないのか。発信しなくても、活動だけすれば良いものではないのか。

市担当 情報発信は、大事なことである。

参加者 そうすると、コピーをしたり、文書を作ったりで公民館と連携が必要ということになる。

市担当 方法は考えていくが、印刷代の予算は考えている。協議会が立ち上がった後も、皆にしっかり知ってもらわないと、一部の人が何をしているのかと誤解を受ける。地区でやり方は違うと思うが、情報発信は必要だと考えている。

- 参加者 地域活動の中で、出ていくのが大変だということで会員数が減っている。ボランティアで出ていくことばかりで、交通費が出ないことも多い。その上にまたこの取り組みをすると、また、事務作業が増えるなどということで、それなら、止めてしまおうかと言う人も増えている。ただ、団体の連携は必要と思う。
- 参加者 まちづくり懇談会は、どういう組織か。
- 市担当 条例と推進計画の素案を作るために意見を伺う組織で、役割は終えている。
- 参加者 今後も機能する組織と思った。
- 市担当 まちづくり協議会ができて、連絡協議会を作った方が良いという意見もある。
- 参加者 今日は案内がきて、まちづくり協議会が設立されるということだけのことで参加した。何が何やら分からない。今年、PTA会長となっているが、来年はいない。
- 市担当 PTAは、自身の子どもが卒業するといなくなる。PTA連合会長にも相談しているが、仕事を持っている人は、まちづくりになかなか参加できず、せいぜい、PTAをするのが精一杯という人が多い。そう言われれば、どうしようもない所もあるが、PTAを卒業してもやろうという人も中にはいる。代ってしまえば、それはそれで引き継いでもらいたい。
- 参加者 PTA役員は年々変わっていくため、その年、その年の色が出る。代が変われば色が変わるため参画できないと思うが、青少年団体もあり、何らかの形では参加しないといけないとは思いますが、厳しいような気がする。
- 市担当 どういう形で参加するかは別にして、どこの地区でも、若者の参加の話が出てくるが、やる気のある年配の方は生涯現役社会でやっていただきたい。若い人も、時間が限られるのであれば、リーダーとしてではなく、参加するという形でも可能だと思う。
- OB会を作って、少しでもまちづくり協議会に参加してもらえないかということもPTA連合会長にお願いしている。皆さんでしっかり話し合って、どういう形にするかは決めていただければ良い。
- 参加者 OB会は、その時の人たちの声は反映されないため、あまり意味がない。
- 市担当 子どもの問題は、役員が代わっても変わらない問題である。
- 参加者 上部組織から、去年の会長からこう言われていたので、今年も守ってくれと言われる。
- 市担当 PTAだけで話すと、どうしてもそうになってしまう。
- 参加者 市民活動センターに登録しているが、協議会ができるとスクラップするのか。その関係はどうなるのか。
- 市担当 所管が異なるが、摺合せは必要である。豊田のまちづくり協議会は、地区内のまちづくりになるが、市民活動の方は、全市を対象にした活動であるべきと考えているが、実際は小さな範囲でやっているようだ。
- 参加者 担当職員の配置の件をよく考えてもらわないといけない。よく人選し教育してもらわないと進まない。ここは、豊田町出身でないと無理だ。
- 市担当 人事の権限はないが、意見として伝えたい。

- 参加者 職員がいつまでたっても自治会長を覚えきらないので、今でも困っている。
自治会長を知らない職員が結構いる。特にこういう取り組みは地元の人を知ることが必要。
- 市担当 サポート職員は、コミュニケーションをとらないとできない。非常に難しいが、そういう意見は伝えたい。
- 参加者 今日の説明などは、次の会長に申し送りすることなのか。
- 市担当 まだ、準備段階のため、こういう事があるよということを伝えてもらいたい。
- 参加者 若い者の話は、若い者でないと分からない。
3園の連合体は、役員が毎年交代するので、それぞれの園の会長を呼ばれた方が伸びのある話ができるのでは。
- 市担当 是非、小学校、中学校と続けていただきたい。苦手な人もいると思うので、一概には言えないが、なるべく長く続けてもらいたい。
- 参加者 まちづくりの目標やゴールがあれば、次の代に伝えやすい。
- 市担当 今日は分かりづらかったと思うが、マニュアルに具体的に示していく。
- 参加者 P T A会長を持ち回りしているが、続けてくれと言われると、会長をしないということになる。どこもそうだと思うが、続けてくれと言われても続けることができない。どこに目標があるのか、スタートもゴールも分らない。